

仏の願い

平成 23 年 西雲寺だより 秋号 (23 号)

報恩講のご案内

10月17日(月)～19日(水)

17日…………… お逮夜(2:00～) お初夜(7:00～)

18日 お日中(10:00～) お逮夜(1:45～) お初夜(7:00～)
└御伝抄拝読 └御伝抄拝読

19日 お日中(9:30～)

法話 小浜 吉田俊宣師 (18日～)

18日はバスが出ますのでご利用下さい。

放送会館前発(8:50)～東別院前～工大温泉前～西安居經由
坪谷発(9:00)

常森発(9:00)～鮎川～小丹生經由

おさそい合わせの上 多数ご参詣下さい

もくじ



- 2～3 ページ 親鸞聖人のご生涯・京都に帰る
- 4～5 ページ 750回大遠忌参拝 みなさんからの感想
- 6 ページ 福島からようこそ！お寺にホームステイ♪
- 7 ページ 掲示板の言葉 正信偈に先輩の感動あり
- 8 ページ みなさんからの寄稿

親鸞聖人のご生涯

京都に帰る

扶風馮翊(ふふうふよく)(風まかせ、足まかせ)

おおよそ三十年ぶりに京都に帰られた親鸞聖人が目にしたのは、あまりにも変わってしまった都のすがただったので、『御伝鈔』には次のように書いています。

聖人、故郷に帰りて、往事(おうじ)を思うに、年々歳々(せいせい)夢のごとし幻のごとし。長安・洛陽の栖(すみか)も跡をとどむるに、ものうしとて、扶風馮翊、ところどころに移住したまいき。五条西洞院(にしとういん)わたり、ひとつの勝地(しょうち)なりとて、しばらく居(きよ)をしめたもう。

(故郷に帰られた聖人は、自分の足跡をふり返ってみると、一つ一つのできごとが、夢か幻のように思われるのでした。その昔、中国の都の長安、洛陽のように栄華を誇った都さえ、その夢の跡は見苦しく、悲しいものだということをしみじみと感じられた聖人は、居を定めることもなく、転々と移り住まわれるようになりました。ある時聖人は、五条西洞院のあたりがお気に入りとなり、しばらくそこに落ちつかれることとなりました)

聖人は家や道場を構えることの煩わしさを厭(いと)い、気の向くまま住居(わびずまい)を移りながらの生活だったので。聖

人には家を構えるだけの経済的余裕もなかったのでしょうか。京都へ帰ってからの聖人は、関東のお弟子と手紙のやり取りをしてお弟子の疑問に答えておられました。また直接京都にのぼってこられて不審を問います。京都での聖人の生活は、これらの関東のお弟子やお同行から送られてくる懇志によって支えられておったのです。

浄土門の変貌

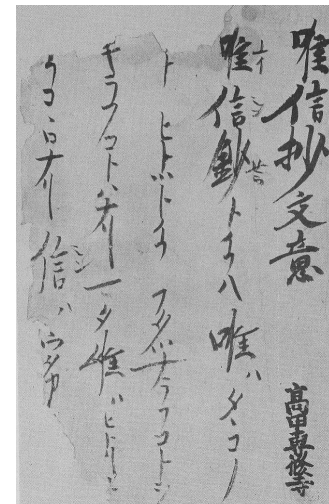
三十年ぶりに帰洛(きらく)された聖人は、故郷とはいえ、京都にもはや知る人は少なく、法然上人の吉水(よしみず)時代の先輩たちもちりぢりになり、吉水時代の法兄(ほうけい)、聖覚(せいかく)法印(ほういん)は聖人帰洛の直前になくなり、隆寛(りゅうかん)律師もすでになくなっていました。

聖覚法印は、親鸞聖人が二十九歳の時比叡山を下りて六角堂に百日間の参籠(さんろう)をされた時、聖人を吉水の法然上人のもとに導いた人といわれ、また聖覚法印の著わされた『唯信鈔(ゆいしんしょう)』を大切な聖教(しょうぎょう)とされ、たびたび書写をして関東の門弟に「よく読むように」と送られています。聖人は晩年この『唯信鈔』を註釈されて『唯信鈔文意(もんい)』を著わされ、関東の弟子に与えておられます。

これらの法友と出遇えることを楽しみにしていた聖人にとって、すでになくなって

おられたことは大きな悲しみであったことと思われませんが、更に聖人を悲しめたことは法然上人なき後、専修(せんじゆ)念仏の教えが大きく変ってしまったことであつたと思われまます。

人間のもっている深い業とも思われますが、それには一つのわけが考えられます。吉水における法然上人の専修念仏の教団に集まった門弟たちは、それぞれ、親鸞聖人もそうでしたが、皆もととは比叡山で修行した天台宗の僧であつたのです。その人たちが比叡山を下りて法然上人のもとに集まったのです。その人たちの動機はさまざまであつたと思われまますが、比叡山での自力の修行に挫折した人、吉水で専修念仏を説かれていた法然上人の魅力に引かれた人などです。親鸞聖人もその一人でしたが、聖人は二十年間の比叡山の修行に完全に絶望して山を下りられ、法然上人のもとに行かれて「ただ念仏一つ」の教えを聞かれ「雑行(ぞうぎょう)を棄てて本願に帰す」と回心(えしん)をされました。



重文 御真筆
『唯信鈔文意』

には、比叡山での教えや修行を完全に棄てきれず、回心をせずに法然上人の「他力念仏」の教えを聞いたのです。自力の執心を棄てきれず残したまま、その上に「ただ念仏一つ」の教えを聞いたものだから、それぞれのいただきかたが違ってきたのです。聖人は、どうすることもできない深い悲しみを懐かれたものと思われまます。

教行信証（きょうぎょうしんしょう）の完成

聖人が京都へ帰られてから十年間、六十二歳から七十歳過ぎまで何をしておられたのか、その動静が全く伝えられておりません。念仏の教えを説いておられたとか、何か著述をされたとか何も記録されたものはありません。聖人の生涯における一つの謎といつてよいでしょう。

しかしこの時期は聖人にとって人生における充電期間でなかったかと思われまます。京都にはもう、よき師法然上人はおられませんが、上人の教え、特に「愚にかえる」ということを我身にいただき直されていかれたものと思われまます。それともう一つ、聖人には大きなお仕事が残されておりました。それは『教行信証』の完成です。『教行信証』は親鸞聖人五十二歳の時、稲田の草庵で一応完成したといわれますが、それは下書き程度に不完全なものだったようです。『教行信証』は、法然上人の著わされた『選択集（せんじやくしゅう）』の真实性を解きあかしたのですが、『選択集』ほど比叡山や奈良の聖道門（しょうどうもん）仏教から厳しい批判を受けたものはありません。吉水の草庵において法然上人が『選択集』を著わされると、早速鋭い糾弾を受け、それがもとで承元（じょうげん）の法難がおこり、法然上人は土佐に、親鸞聖人は越後に流罪となつたのです。更に聖人五十五歳の時には『選択集』の版木が朝廷によって没収され比叡山で焼き払われてしまったのです。それとともに比叡山の僧兵たちによって、法然上人の墓があげかれ、遺体が加茂川に流されようとされたのです。これは遺弟（ゆいてい）

たちによって何とか阻止されたのですが、嘉禄（かろく）の法難といわれるものです。このような苛酷な運命をたどつた『選択集』の正統性を明らかにする『教行信証』の完成が聖人には待たれていたのでした。

平太郎 熊野詣で

親鸞聖人御齡六十八歳の春といわれています。その頃聖人は五条西洞院附近に住んでおられましたが、関東のお弟子たちは遠路をもつともせず、上洛して聖人に教えを受けていました。

そのなかに常陸国大部郷（ひたちのくにおおぶのこう）の農夫で、平太郎という熱心な念仏者がいました。その平太郎が急に所用で紀州の熊野神社に参詣しなければならなくなつたのです。そこでどのような心構えで参詣したらよいものか心配になつた

平太郎は、途中京都に立寄り、聖人に「念仏者としていかがして参詣したらよろしいでしょうか」とお尋ねしたのでした。聖人は「特別に威儀を正したり、不浄をとりつくろふことはありません。ありのままの姿で参詣してくればよろしい」とお教えになりました。

熊野に到着した夜、平太郎は夢を見ました。神殿の奥から神様が現れて平太郎に「何故お前は穢れた身で参詣するのか」と尋ね

ると、聖人が現れ、「平太郎は念仏者なのです」と言われました。神様は納得されたのか、それ以上何もおとがめになりませんでした。帰路、平太郎は一部始終を聖人にご報告しますと、聖人は「うむ、そのことだ」と言われたそうです。

鏡の御影（こえい）

親鸞聖人御齡七十歳の秋のことです。関東から上洛していたお弟子の一人、入西房（にゅうさいぼう）は、かねがね聖人の肖像面を戴きたいと思つていましたので、ある日思い切つてお願いしました。聖人のご指名で入西房は七条辺に住んでいる常禅法橋（じょうぜんほつきょう）に依頼し、常禅は早速聖人のお住まいに参上しました。ところが常禅は「実は昨夜夢を見ました。立派な僧が二人おこしになり、一人の僧がもうお一方のお姿をお写し申せとおっしゃるのです。こちらはどなたさまですかとお尋ねしますと、善光寺の阿弥陀如来ですと言われました。この聖人のお顔は昨夜の阿弥陀如来のお願とそっくりでございますいます。昨夜もお顔だけお写したのですから、今日もお顔だけにいたしましたしように」と言つてお顔だけお写ししました。これが有名な「鏡の御影」（国宝）ではないかと推測されています。



国宝 鏡の御影

（住職）

感想ありがとうございました

先日は75の回忌のご本山参りにおいて、ご住職様ご夫妻、並びに若様ご夫妻様とご一緒出来ました事を大変幸せに思っております。私は4月に体調がすぐれず何かと心配しておりましたが、今月には元氣になり無事お参りする事が出来ました。これも全て仏様のお導きと喜んでおります。80才を目前にし、まだ自分に出来る事のある我人生を感謝すると共に、仏様に手を合わせ心安らかに日々精進するつもりであります。心洗われる一日でした。ありがとうございました。

平埜卓夫

75の回忌法要に参拝できたのが縁なのか、友人、甚六さんに出会いました。35年か40年目で共に80才をこえて居ました。若い時の思い出話がつきませんでした。75の回忌法要のせいなのか、とてもふしぎな出会いでした。

北川甚一

天気よくバスも大型バスでも楽しく御参拝できました。人は色々と言いますが10の点満点だと95点かなうと思えます。

北川照子

晴天に恵まれ、皆様のお世話になり、大法要にお参り出来ました事を心より感謝いたします。すべて御仏様のお道引きでございます。今後心身とも気をつけて、永代経、報恩講とお参りさせていただけます。ありがとうございます。

城崎美年子

親鸞聖人七五〇回御遠忌の記念の年に法名を拝受できたことを大変感謝しています。両親も随分早めに法名をもらっており、自分も機会があればと思っておりましたが、七五〇回遠忌の事を知り、また定年を過ぎたことを機に参加させていただくことを決め、昨春秋にご住職にその旨お願いしました。

ただ、母親が入院中で、もしものことがあればとそのことばかりが気になっていました。法名を拝受できたのは、ただただ母が頑張ってくれたためと、ありがたく感謝しています。

最後に（真っ先に書くべきでした）ご住職ご夫婦、若住職ご夫婦がこまごまと気を配られ動き回られていたことを申し訳なく思いました。ありがとうございました。

土田博澄

七百五十回忌、参拝させて頂き御礼申し上げます。御皆様の御陰様と喜んで居ます。奥様方にも宜しく御伝え下さい。

山本仁作

- ① 67才にて初めて寺の行事らしい事を見た気がした。
- ② 時代を先取りした考え方が今、なっとく出来る事になった。
- ③ 人間社会のうつり変わりが起きているようだ。
- ④ 朝早くから起きて出席した多く方々に感心した。
- ⑤ 世の中まだまだ変わるだろうが、寺もやり方を研究するべきかも。

宮腰忠實

この日の健康よしとして車中の人となる。前から参ることが出来るか心配していたがとうとう車に乗って出発してしまっただけ。油屋さんで約束していた通り京都へ参る事ができました。いろいろな方々にお世話をしていただき、寺の中の人となつた。私が大変感謝している事は、何といっても特等席をいただき、テレビの前で大変はつきりと参加出来た事です。有難うございました。

八木林左エ門

宗祖 750 回大遠忌参拝

帰敬式を行う一泊コースに出席させていただき、ありがとうございます。750 回大遠忌に仏光寺本山で法名をいただいて仏教徒となることは、大変光栄だと思います。お釈迦様の教えを聞いていく出発点にしたいと思います。

南部一郎

仏光寺本廟の参拝、おつとめで始めました。早朝の静かな中で、帰敬式を受け、いただいた法名を口にして、今の私そのものだと、温かい気持ちになりました。荘厳な 750 回大遠忌法要に参加、参拝させていただく機会をいただき、感謝致します。ありがとうございます。

南部由美子

誠に会い難き法要に、夫婦揃って参詣出来得ました事、先ず以て感謝のお念仏を申させて頂きました。有縁（宿縁）故と重ねて感謝のお念仏をナムアミダ仏。大師堂の荘厳、誠に極楽世界の如く感じました。仏縁参詣の善男善女の大群衆、仏様なればこそと内心より思います。午後の狂言も亦素晴らしかったと思っております。ナムアミダ仏

高橋賢治

個人的には朝のバスに乗る所から皆さんにご迷惑をかけ、一人だけ離れている不便を感じましたが、大変お世話になりました。法要は説法を期待しましたが、残念ながら余りにも短か過ぎました。皮肉な事に興味を感じなかった新作狂言が話は知っているのに感涙にむせんだのは私一人では無かったかと思いい、新しい説法の在り方になるのだろうかと思われしました。末定富雄

お陰様で大勢の人に出会い、楽しさ一杯です。其の上、ご住職が七条姿で先頭になって出てこられ、おつとめの第一声をあげられ又驚きました。お内陣は金で埋め尽くされ極楽に入ってお説教を聞かせて頂いて居る様な気が致しました。私も不自由な体で随分迷いましたけれど、皆さんにご迷惑をかけ乍らも楽しく心豊かで、これよりポツポツと思いつく心豊かに喜ばせて頂きます。少し心を入れ替えて、あの世にお土産を持って行くまで頑張りたいので、もうしばらく生きさせて下さい。何時もお腹一杯ご馳走様でした。本当に本当に有難く楽しみでした。

宮腰キヨ子

宗祖七五〇回大遠忌法要に参拝させて頂き誠に有難うございました。立派なお寺、大勢の住職様に感動しました。よい思い出になり有難うございました。

匿名さん

得難いご縁をいただき、宗祖聖人の七五〇回大遠忌にお参り出来たことは、終生の喜びと感謝しています。特に荘厳の中での正信偈の大合称は心の底まで響いて、今までに出会ったことのない豪快さと有難さを感じました。また、お世話いただいたお方に厚くお礼を申し上げます。なお、ご計画中の西雲寺様での七五〇回大遠忌の一日でも早いご開催をお願い申し上げます。

近藤喜平

朝早くに行ったのにもかかわらず本堂には入れなかったが、ぬれ縁は風があって涼しくかえって良かった。宗教離れが言われている今日ですが、750 回も続いているのは素晴らしい。私たちも子孫に伝えなければと思う。

吉川芳弘

福島からようこそ！お寺にホームステイ♪

この夏休み、放射能のため外で遊べない子供たちのために、殿下地区を挙げて、福島の方々に2回受け入れました。お寺でも、合わせて13人をお迎えしました。

私はまず、みんながとても元気で興味津々なのに驚きました。朝5時半のお鐘をついたり、1時間以上もゴンの散歩に出かけたり、川でカニや魚を捕まえたり、花火をしたり、楽しい時間を過ごしてくれたと思います。

「今までは当たり前だったことが貴重なことだったと気付きましたし、子供たちの笑顔を見てみると本当に嬉しくて、感謝します。」とおっしゃった福島のお母さんの言葉がとても印象的でした。

今、福島では、ガラスバッジという線量計が配布され、マスクをして登校しているそうです。そんなふうには半年たっても胸が痛む災害に対して、一人一人の「何かしたい」という小さな思いが集まって、今回の受け入れが実現しました。野菜を届けて下さった方を始め、地区全体が温かい空気に包まれていたからこそ、福島の方々に居心地よく過ごしてもらえたのだと思います。私さえも、温かい心のかたまりに大きく包んでもらっていただいたかもしれないなあ、最近思うようになってきました。

(美和子)

この夏休み、放射能のため外で遊べない子供たちのために、殿下地区を挙げて、福島の方々に2回受け入れました。お寺でも、合わせて13人をお迎えしました。

私はまず、みんながとても元気で興味津々なのに驚きました。朝5時半のお鐘をついたり、1時間以上もゴンの散歩に出かけたり、川でカニや魚を捕まえたり、花火をしたり、楽しい時間を過ごしてくれたと思います。

「今までは当たり前だったことが貴重なことだったと気付きましたし、子供たちの笑顔を見てみると本当に嬉しくて、感謝します。」とおっしゃった福島のお母さんの言葉がとても印象的でした。



8時間の遠路をようこそ♪



近所の方からプレゼント♪



砂遊び！当たり前前の幸せ



プールや海が大好きでした！



お寺の下の川で



早朝5時半のおかねつき体験



武岡の方とたこ焼きパーティー



掃除もしてくれました♪



安心して暮らせる日を願ってます



お寺の下の公園で

山門掲示板

念仏申せば

即ち煩悩もつるべし

本願が

たもたれてい

その大悲の

よい声である

私たちは仏法を聞くのは、煩惱に苦しみ、自他ともに傷つけ合ってしか生きていけないこの身が、少しでもましな人間になって救われていくことだと思っています。

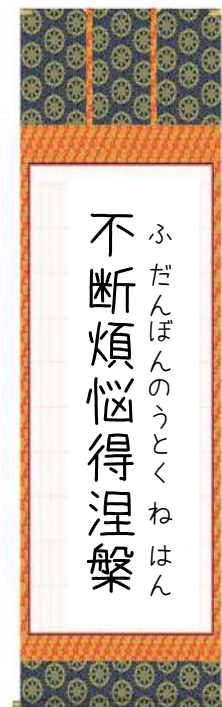
しかし、親鸞聖人は『歎異抄』に「いづれの行もおよびがたき身なれば、とても地獄は一定（いぢじょう）すみかぞかし」といわれ、七高僧の善導大師は「自身は現にこれ罪悪生死（しやうじ）の凡夫、曠劫（こうごう）より已方（このかた）、常に没し常に流転（るてん）して、出離（しゅり）の縁あることなし」と我が身をいただいておられます。

如来のご本願はたすかる縁のない者を見い出したが故に建てられたのです。

聞法をとおして、我が身が照らし出されたとき、「迷いの身に目覚めて、念仏申す尊いのを生きてくれ」という大悲のよび声が聞こえてくるのです。

（住職）

『正信偈』に先輩の感動あり



煩惱を断だんぜずして

涅槃を得え

意味 読み方

煩惱を断ち切らないまままで
涅槃を得ることができません

- ★ えっ？「涅槃」ってお釈迦さまの「さとり」の境地のことじゃないの？
- ★ 「さとり」に至るには、煩惱を断ち切るまで厳しい修行をするのが常識だけど…
- ★ ひよっとして、お釈迦さまと同じ満足を私も得ることができること？

※皆様の驚きや疑問もお待ちしております

寄稿

念佛

南無阿彌陀佛が救います
 迷ひの中から救います
 信心浅いが 本願塗まら
 智恵心二意悲も無量の廻りし
 南無阿彌陀佛に社上申す
 平登造五郎

光輪

涙の雨か音も無く
 降りそそぐ
 頂き「仏の願の業」をゆき
 人は生死の一大事
 無常の嵐は、この身に
 つら訪れるやも知れぬ
 大修行にみごとく日々
 過ぎ行きて
 他力の信心うる人「おぼ」
 法身の光輪せの盲冥を
 照し賜う「とは」
 あく不思議「まがや
 南無阿彌陀佛

西列所町 釈真光妙映

※高田派の法名です

発行

真宗仏光寺派 専念山 **西雲寺**
 住職 護城一寿
 筆頭総代 吉川芳弘
 編集責任者 護城一哉
 〒910-3523 福井市武周町5-2
 電話 0776-97-2138
 メール kmgojo@mx3.fctv.ne.jp
 ホームページ http://arukou.net/

次世代の方、分家された方に！

お手元に2部届いた時には、ぜひご活用下さい。

みなさんの声 大募集！

原稿や作品はもちろん、ご意見、ご感想など、どしどしお寄せ下さい。郵送でもメールでも構いません。お待ちしております。